

令和5年度学校運営連絡協議会実施報告書

都立大江戸高等学校（定時制課程）

1 組織

- (1) 東京都立大江戸高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 事務局の構成 事務局（3名）
副校長、主幹教諭（教務主任）、主幹教諭（総務主任・事務局長）
- (3) 内部委員の構成（8名）
校長、副校長（2名）、経営企画室長、主幹教諭（教務主任）、主幹教諭（生活指導主任）、主幹教諭（進路指導主任）、主幹教諭（総務主任）
- (4) 協議委員の構成（9名）
学識経験者（大学教授）、江東区教育委員会、深川警察署生活安全課、千石2・3丁目町会会長、江東区立川南小学校長、江東区立深川第四中学校長、都立江東特別支援学校長、江東区教育センターブリッジスクール指導員、本校教育振興会<PTA>役員

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容
 - 第1回 令和5年6月23日（金）開催 内部委員8名、協議委員6名
 - ①校長挨拶、②協議委員・評価委員委嘱状交付、③委員紹介、④令和5年度管理運営規定
 - ⑤グランドデザイン・令和4年度学校経営報告、令和5年度学校経営計画、⑥校内別室指導
 - ⑦本校の現状と課題について、⑧事務連絡
 - 第2回 令和5年12月1日（金）開催 内部委員8名、協議委員3名
 - ①校長挨拶、②学校における働き方改革について③学校評価について、④本校の現状と課題の説明、⑤意見交換、⑤事務連絡
 - 第3回 令和6年2月16日（金）開催 開催 内部委員8名、協議委員6名
 - ①校長挨拶、②今年度の各分掌の取り組み報告（教務部、進路指導部、生活指導部、総務部）、
 - ③学校評価アンケート結果報告、④事務連絡
- (2) 評価委員会の開催日時、出席者、内容
 - 第1回 令和5年12月1日（金） 内部委員2名、協議委員1名
 - ①学校評価の基本方針の確認、②今年度の学校評価の観点・項目・内容・実施時期の検討
 - 第2回 令和6年2月16日（金） 書面開催
 - ①アンケート集計結果の分析・考察・課題の整理、②評価報告書（原案）の確認（郵送後、ご意見等の各委員からの確認を行った）

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点 「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
 - ・「学校への理解」 「地域にとって災害時に大江戸高校は頼りになる」では「情報がなく分からない」の意見で33.3%の意見があり、周知改善の必要がある。
 - ・「学校の意欲」 「大江戸高校の進学・就職などに関する進路指導に期待する」、「大江戸高校を応援したい」がともに「そのとおりだと思う」で100%の回答があった。
 - ・「学校の実践」 単位制・総合学科・3部制の特色を生かした学習活動及び学校生活の実現が図

れ「個に応じた素晴らしい学校だと思う」のご意見があり、肯定的な意見があった。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

- | | | | |
|------------|----------|----------|----------|
| ・12月 全校生徒 | 対象： 579人 | 回収： 424人 | 回収率： 73% |
| ・12月 保護者全員 | 対象： 579人 | 回収： 153人 | 回収率： 26% |
| ・12月 地域住民 | 対象： 30人 | 回収： 24人 | 回収率： 80% |
| ・12月 教職員 | 対象： 56人 | 回収： 38人 | 回収率： 68% |

(3) 主な評価項目

- ・ 学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、ライフワークバランス

(4) 評価結果の概要

- ・ 教員アンケート数は昨年度比1名減で変化がなかった。また、生徒アンケートでは昨年度289名から424名と大幅に増加した。また、地域住民アンケートでは12月中旬から開始したため、12月町内会後であったため、アンケート回答数が減少した。
- ・ 本校の生活指導、進路指導、体験活動、学校行事などについては、多くの生徒が肯定的に受け止めている。
- ・ 保護者や地域住民は全体的には肯定意見の方が多いが、「情報がなくわからない」と回答している項目もやや多く、内容は防災関係のアンケートで、大江戸高校での地域防災連携についての情報周知の課題が浮き彫りになった。
- ・ 学校運営連絡協議委員会からは概ね肯定的な意見であった。
- ・ 地域住民の学校の「その通り」の回答が一番多い質問が昨年度では、「大江戸高校を応援したい」が62.5%であり、3年連続1位であった。

(5) 評価結果の分析・考察

- ・ 評価項目では順位の変動がないものが多かったにも関わらず、肯定的な意見が徐々に減少している事実が確認でき、順位だけではわからない、評価割合を受け、次年度の学校経営への改善に尽くす必要がある結果であった。自由意見では、保護者からは、子供の意見を反映した意見もあり、育の後にテストを行うことへ時間割上の配慮を示す内容提示があり、次年度以降で改善できるか検討していく内容等が示されていた。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・ 学校の教育課題に対して多面的な助言をいただき指導の改善に生かすことができた。
- ・ 地域や関係諸機関との連携を図った防災訓練など、防災教育の推進を図ることができた。
- ・ 20周年記念式典では、学校運営連絡協議委員の協力もあり、盛大に挙行することができた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・ 「新しい生活様式」を踏まえた取組を推進することによって、生徒の学校評価を肯定的なものへと変えていくことが必要である。
- ・ 学校情報の回覧等を活用して、地域住民への情報提供を効果的に行うことが必要である。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学習活動

- ・ 一人1台端末・ICT機器を活用した学習指導等の推進と授業力向上のための研修を行う。
- ・ 土曜講習、平日補講、長期休業を利用した補習など組織的・計画的に実施し、学習支援体制を整備

する。

(2) 生活指導

- ・全教職員が共通理解のもと、遅刻防止、頭髪・服装等の生活指導を行う。特に情報機器の適切な利用（SNSルール）を徹底する。
- ・自立支援チームや教育支援委員会と連携し、特別な支援が必要な生徒への指導を充実させる。

(3) 進路指導

- ・1年次から計画的なキャリア教育を実施することにより生徒が進路における自己実現や社会性の育成を図ることができるよう支援する。

(4) 特別活動・部活動

- ・学校への帰属意識向上のために、学校行事をより充実させる。
- ・生徒会活動や部活動に生徒が積極的に参加できるよう教員の指導体制を整え、部活動には外部指導員を積極的に導入し、活性化を図る。

(5) 健康づくり

- ・学校給食を活用した食育を推進し、正しい食生活、食に関する知識・理解を深めさせる。

(6) 募集・広報活動

- ・校内外の学校説明会や中学校訪問等を通じた学校情報の提供、多言語によるWEBページ構成とした効果的な学校WEBページを展開する。
- ・学校WEBページのコンテンツ充実を図り、随時更新を行い、情報のリフレッシュを図る。

(7) 学校経営・組織体制

- ・企画調整会議を中心とし、一体となった学校運営体制を構築する。
- ・主幹会議を活用した、機動的な学校運営を展開する。
- ・耐震設備を随時見直し、施設・設備の安全管理を徹底するとともに地域と連携して防災教育の推進を図る。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 6名

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
4	2					

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

参加実績 なし

8 その他

- ・第三回学校運営連絡協議会において、委員から学校評価についての質問内容の変更依頼があり、地域住民アンケート調査では、次年度質問項目の変更を視野に質問項目の見直しをすることになった。